

# 伊勢湾 風の回廊

風の恵みを訪ねて



NPO法人 伊勢湾フォーラム

# 伊勢湾 風の回廊

## 目次

一章	伊勢湾の風と風土	
	伊勢湾の風	1
	伊勢湾の風土	2
1.	風のイメージ	
	風のイメージ - まつり・信仰	3
	風のイメージ - 行事・遊び	5
	風のイメージ - 現代の風	7
	風のイメージ - 観天望気	9
2.	風のかたち	
	風のかたち - 打瀬船	11
	風のかたち - 舟造り	13
	風のかたち - マリンスポーツ	15
	風のかたち - みなと	17
	風のかたち - 現代の風	19
	風のかたち - 空へ	21
	風のかたち - 空のみなど	23
二章	世界の海と伊勢湾	
1.	アドリア海-地中海の風土	25
2.	伊勢湾の風土	26
3.	海辺の産業・施設 - 海外	27
4.	海辺の産業・施設 - 伊勢湾・名古屋港	28
5.	海辺の文化 - 海外	29
6.	海辺の文化 - 伊勢湾	30
7.	海辺の自然 - 海外	31
8.	海辺の自然 - 伊勢湾	32

平成16年10月 発行(初版)

編集・監修 NPO法人 伊勢湾フォーラム  
国土交通省 中部地方整備局  
名古屋港湾・空港整備事務所

本資料に使用した写真等は、関係各位のご協力により  
本企画に限り独自に入手・引用したものです。  
従って、本資料以外への複製、転載、複次利用はでき  
ませんのでご注意ください。

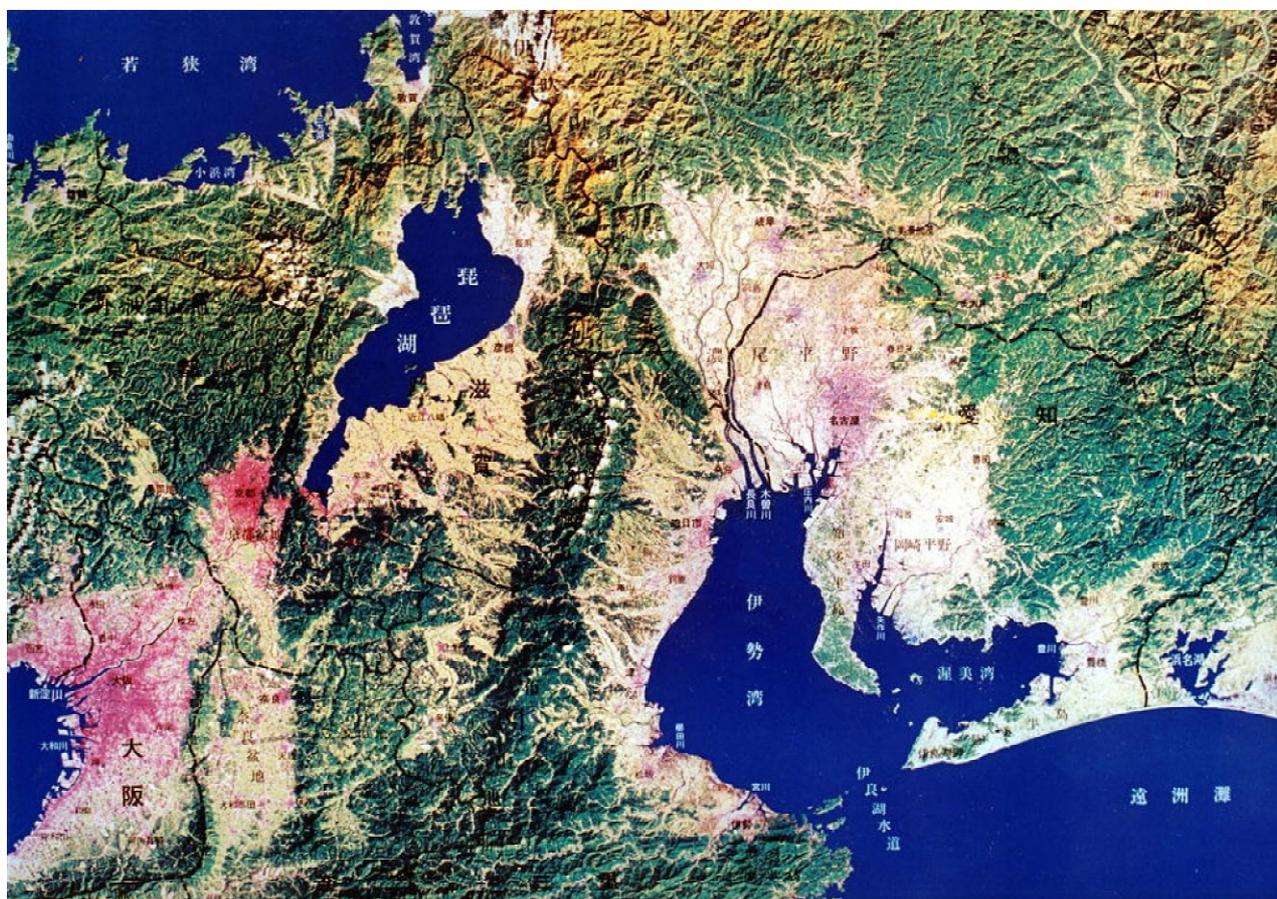
# 伊勢湾 風の回廊

風の恵みを訪ねて

## 一章 伊勢湾の風

### 伊勢湾の風

日本列島の中央に位置する伊勢湾から若狭湾に至るこの地域は本州で最も幅が狭いうえ、大規模な山系に挟まれた「地峡帯」をなしている。日本は全般に冬の北西の季節風と、夏の南東の季節風が代表的な風（卓越風）であるが、その中で若狭湾から伊勢湾に抜ける地峡帯は、卓越風のジェット効果流が生じやすい地形になっている。この地帯には、伊吹山地、鈴鹿山脈、養老山地等、南北に走る山系があり、冬は若狭からの北西風が乾いた冷たい「伊吹風（オロシ）・鈴鹿風」となって吹き抜け、夏は太平洋の南東からの海風が雨や湿気を運ぶ「風の回廊、風の運河」とも呼ぶべき、日本の中でも特異な地域である。



風の回廊（敦賀湾-伊勢湾の地峡帯）

## 伊勢湾の風土

古来、伊勢湾は「みけつくに」と呼ばれたように四季折々の風がもたらす海の幸・山の幸に恵まれ、その大漁や豊作を祈り、海のなりわいや海辺の暮らしの安全・無事を願って、津々浦々で神仏を祀り、さまざまな祭りや芸能などの文化が伝えられてきた。

一方、伊勢湾奥に開港した四日市・名古屋港を初めとする内陸では、海の彼方から吹き寄せた欧風近代化の波により繁栄を謳歌し、文明の利便や恩恵を享受している。

いずれにせよ風の回廊・伊勢湾の「風土」はこれら吹き渡る風に育まれてきたと言えよう。



新しい伊勢湾(衛星画像)

現代のわたしたちは伊勢湾に遺された自然とその恵み、守られてきた伝統文化、そして新たに創られた文明とその技術や知恵、それら全てを「伊勢湾の風の恵み」として、再び「豊かな海と人々の生き生きとした共生」のために活かしていかなければならない。

## 1 . 風のイメージ

### 風のイメージ - まつり・信仰

目にみえない空気のそよぎを、人々は風(カゼ・チ)と呼び、折にふれて詩に詠み、あるいは「かたち」に顕わそうとしてきた。夏には南東の、冬には北西の季節風が吹く伊勢湾でも風に対する独特の感受性が育まれた。古代人にとって、ある時は和やかに、そして突然、吹き荒れる風は神として祀られ、恐ろしげだけれど、どこか愛嬌ある絵姿として顕わされている。



伊勢内宮 風日祈の宮(風の宮)



風神雷神図屏風のうち風神(俵屋宗達)

海風の中に浮かぶ伊勢湾口の島々では四季折々に風に因んだ行事が遺されており、お盆のお墓では精霊を迎える飾りが夏の海風にはためく。

また、湾奥の瀨は古来、大気・風を指す「あゆ・ち」に因み、今の「愛知」の由来とされる。湾岸の雪深い山奥でも春風が運んでくる実りを祈って風にちなむ祭りの造形が見られる。



神島のお盆飾り



奥設楽の花祭り

## 風のイメージ - 行事・遊び

伊勢湾の風は、古来、人々の生活の中に深く根付いてきた。目に見えない風と遊び、風を受けてはためき、音を立てる造形が湾岸の各地に見られる。

「鯉幟」は風を受けて初めてその本来の姿をとり、菖蒲の香りと男の子の泣き声を運ぶ五月の爽やかな風をはらんで空に舞う。



久居の鯉のぼり



小坂井の風車

豊橋近郊、小坂井の禹足神社の愛らしい風車を手にとる時、善男善女達はここでは福の神でもある風神の息吹を身近に感じて思わず頬をゆるませる。

各地に吹く風に育まれたれた造形に「凧」がある。安城では、畦の上を吹く穏やかな風に「蜂凧」や「蝉凧」がのどかに羽音を立てるし、尾張平野では頑丈な「虻凧」が空っ風の中を唸りながら舞い上がる。



安城の蜂凧



復元した尾張の虻凧

## 風のイメージ - 現代の風

自然から遠ざかったかに見える現代人にも、風は文学や芸術の中に象徴として息づいている。ギリシャ神話に主題を借りた三島由紀夫の「潮騒」では、海風と黒潮に洗われる湾口の「神島」が舞台となり、また、湾奥の都心では風を受けてゆっくりと動く現代彫刻が市民の目を和ませる。



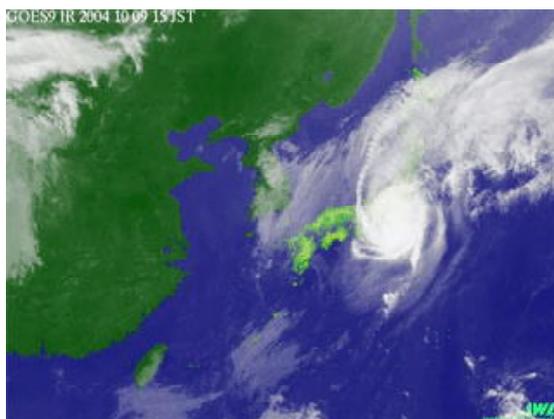
小説「潮騒」の神島



風に動く現代彫刻（名古屋市美術館）

風は大自然の恵みや脅威として、今でも現代の日常生活を支配しており、作物に実りをもたらす、一方では災害を引き起こす台風の襲来に、われわれは息を潜めて一喜一憂する。

霧深い山あいでは作物の霜害を恐れて人工的に風を起こし、また、都心では風の吹き抜ける「風道」により、ビル風を制して暑気を避ける工夫が必要となっている。



2004年10月の台風22号(ひまわり画像)



伊勢茶畑の扇風機群(鈴鹿)

## 風のイメージ - 観天望気

江戸時代から明治中期までの帆船時代を通じ、天然の良港である伊勢湾口の鳥羽、安乗、的矢、浜島などは「風待ち港」として繁栄し続けた。これらの風待ち港では大阪から江戸への西回り航路の「菱垣廻船」や「樽廻船」の千石船が天候が回復するのを待った(日和待ち)。



伊良湖水道



復元した菱垣回船(大阪-江戸 西回り航路)

日和待ちの船乗りたち、それに湾岸の漁師や農民は真剣に空を見上げ、天気の変化を予測しようとした。そして、この「観天望気」により、天気に関する無数の言い伝え・ことわざ(天気俚諺)を生みだした。

例えば、伊勢湾口付近では『東風(コチ)と夜這人は、夜ござる<千賀>』、伊勢湾内では『二八(ニハチ)風より三九嵐(サンクオロシ)が恐い<村松>』(2月、8月の風より3月、9月の北からの突風が恐い)、『八十八のばんの西、要注意<香良州>』(八十八夜前後に吹く西からの突風には注意が必要)といった具合であり、現代の伊勢湾での漁船・海運・レジャーにも活かせる海の知恵といえよう。



日和山の方角石(鳥羽)

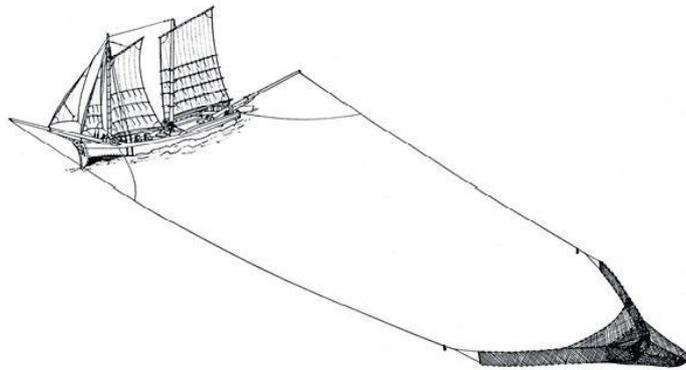


現代の風待ち港(鳥羽)

## 2 . 風のかたち

### 風のかたち - 打瀬船

帆に受ける風の利用して網を引く「打瀬網(うたせあみ)」漁法は江戸時代中期に和泉灘(大阪湾)で行われ、これが各地に伝えられた。伊勢湾・三河湾の打瀬網漁業は、江戸時代後期に江戸湾から伝えられたと言われる。

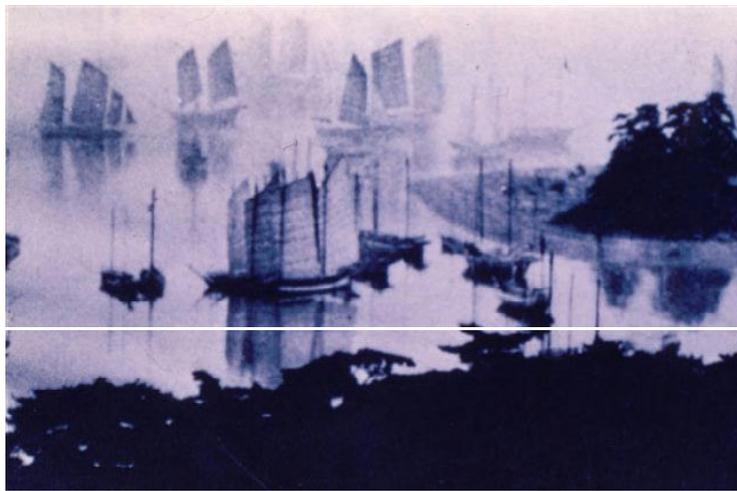


打瀬網漁(一条網)

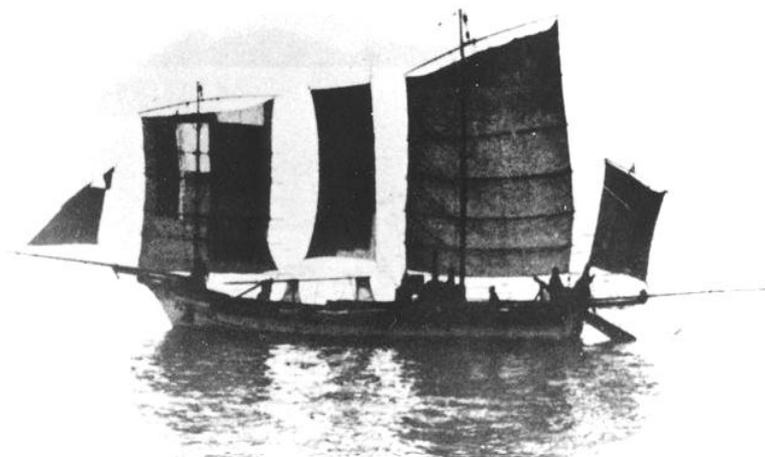


三重の打瀬船(のうらぎ型)

明治に入ると旧来の和船の船型を生かし、しかも逆風帆走性能の優れた洋型船スクーターの帆装をとり入れたいわゆる「愛知県型打瀬船」による漁業は、伊勢・三河湾の代表的な風物詩となった。その打瀬船は昭和五～六年、漁船に動力が付けられることで徐々に役目を終え、その多くは朝鮮半島や瀬戸内海に売られ、昭和34年(1959)の伊勢湾台風によりついに姿を消した。



打瀬船の港

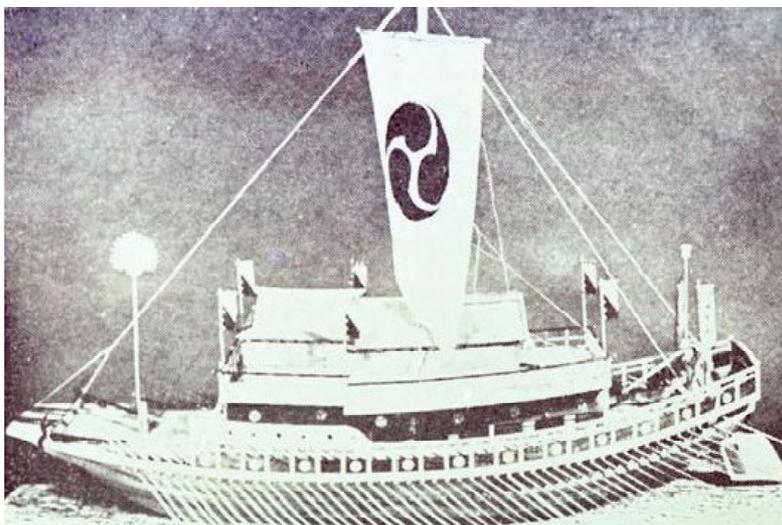


下之一色の打瀬船

## 風のかたち - 舟造り

伊勢湾の西南岸に位置する、宮川・五十鈴川・勢田川の上流域では、雨量に恵まれ大台ヶ原、大杉谷等の大原生林が育ち、檜、杉、ケヤキ等の造船用材に富んでいた。また、これらの川沿いに木材を河口に出すことが容易であるため、古来、下流域、特に「大湊」には造船術が発達し、多くの船舶を建造してきた。

豊臣秀吉は、朝鮮出役の際、大安宅(軍船)「日本丸」を造らせた。明治になると大湊では西洋型船舶の建造を開始し、また「大湊造船徒弟学校」を設立して伊勢湾の船匠を育ててきた。



秀吉の軍船「日本丸」の模型



洋式帆船の建造(市川造船)

平成3年(1991)強力造船所ではアルミ高速艇専用工場を新設し、沖縄の離島間を結ぶアルミ合金製高速旅客船を進水させ、現代の海を走る新しい舟造りを進めてきた。一方で造船所内の工房では徒弟学校ゆかりの老大工に指導を受けながら洋式帆船の伝統的技術で手こぎボート、セイリング・ディンギーを製作した。



アルミ合金製高速旅客船「いにぬぶし」



洋式小型セイリング・ボート

## 風のかたち - マリンスポーツ

三河湾の蒲郡には150年余にわたって世界各国が争奪戦を繰り返している「アメリカズ・カップ・レース」の日本挑戦艇「ニッポン・チャレンジ」の姿も見られる。その由来となったヨット「アメリカ」と「愛知県型打瀬船」は共に当時の英国の漁船などの帆装や特徴ある船型という共通の血筋を引いている。それぞれの海域の風土の中で、一方は最も進化したヨットとして育ち、もう一方はおそらく漁業指導により「合いの子船」として育ったのである。



蒲郡のアメリカスカップ挑戦艇



知多市民俗資料館に唯一遺る愛知県型打瀬船「藤井丸」(ずんど型)

現代の伊勢湾は、同様に閉鎖海である三河湾とともに自然海岸・良港に恵まれ、たとえ突風や天候の急変に対しても比較的、安全な海として、海水浴、ヨット・ボートそれにウィンド・サーフィンなどのマリン・レジャーを楽しむ人々のメッカとなっている。



伊勢湾灯標とウィンド・サーフィン



鳥羽パールレース(鳥羽-湘南 1994年)

## 風のかたち - みなと

伊勢湾のみなの歴史は、天然の良港である伊勢湾口の鳥羽、安乗、的矢、浜島などの「風待ち港」や、東海道五十三次中、唯一の海路であった伊勢湾奥の熱田「宮」～桑名「七里」の渡しに始まる。そして、名古屋港は、明治の開港以来、木曾三川からの土砂の流入による遠浅・潟を、絶えまなく浚渫し、伊勢湾台風の被害などを乗り越えて、日本最大の近代産業港湾として発展・繁栄を遂げた。



桑名 七里の渡し



熱田 宮の渡し

名古屋港では、海運・物流・基幹産業中心の近代化された港湾機能が、沖合の埋立地（金城埠頭・コンテナ埠頭）に移っていった。一方、往時の貿易と荷役で賑わった築地口からガーデン埠頭にかけての旧港一帯は、外国の客船をもてなすターミナル機能や、海の文化のシンボルとして情報発信の窓口となった。近年、都心から訪れる市民の憩いの場となる貴重なウォーター・フロント（水辺）として注目されている。



名古屋港 ガーデンふ頭

## 風のかたち - 現代の風

今も昔も我々をとりまく「大気」の振る舞いは予測しがたく、とらえがたかったけれど、船乗りや漁民たちの間に今も遺る「観天望気」や「天気俚諺」のように、歳月を重ねてその恵みを活かす知恵が伝えられてきた。

また近年、気象衛星・アメダスなどの観測技術やコンピューターによるシミュレーションなどで、その挙動を解析・予測できるようになってきた。



室内のモビール



風の交信装置(海浜研究室 常滑)

これらの智恵や研究の成果により、古くて新しい風車や太陽・潮汐のエネルギーなど自然の力を日常生活に活かしてゆくことで、環境に優しい湾岸開発のあり方や、省エネルギー型の産業・生活など、伊勢湾の自然と我々が持続的に共生することにつながってゆく。



青山高原の風力発電プラントと若者たち



潮汐発電実験船(五ヶ所湾)

## 風のかたち - 空へ

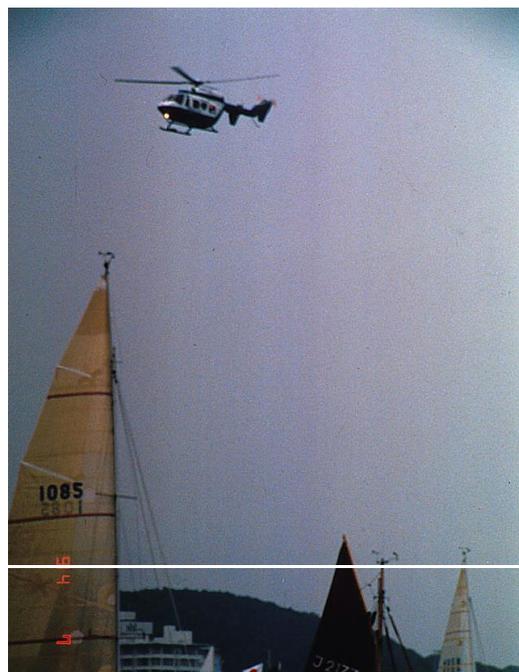
「大気・海」が生み出す「流れの現象」を解析・予測する流体力学など現代科学の成果は、さまざまな航空機・自動車やヨットなどのデザインにも活かされるようになった。琵琶湖での人力飛行機による鳥人間たちの挑戦や、ゆっくりと空からの眺望を楽しめる飛行船など、伊勢湾の観光・レジャーなどの分野でも、新しい風のかたちが見られるようになる。



人力飛行機 (トヨタ)



飛行船 ツェッペリン



レース取材のヘリコプター

伊勢湾洋上の中部国際空港建設にあたっては、季節ごとの風の動きに対して離着陸の安全や騒音などを考慮して滑走路の向きを振ったり、周辺海域の生態系や複雑な海中の潮流を妨げないように空港島の形や護岸の工法などが工夫された。これも伊勢湾の環境に優しい新たな風のかたちといえよう。



中部国際空港の航空写真

## 風のかたち - 空のみなと

時代が共有する「普遍のかたち」の象徴であるアルミ合金製・ハニカム構造の巨大なジェット旅客機が、銀色の翼に21世紀の伊勢湾の風を受けて大空へ舞い上がろうとしている。

湾内に誕生した空港島は一方では、周辺の藻場や魚群が寄りつき育まれる「生命のみなと」としても機能することが期待される。



常滑沖の試験飛行

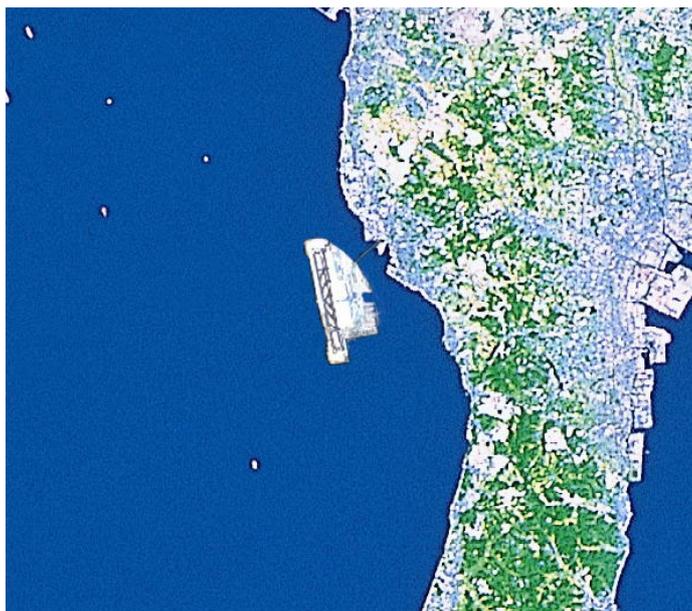


中部国際空港観測塔

中部国際空港が空の「みなと」として、鳥羽など天然の良港、名古屋港などの近代港湾とともに、海・空、そして昼夜を分かたず、伊勢湾に新たな人々や文化を風に乗せて運んでこようとしている。



中部国際空港工事



中部国際空港(衛星写真)

## 二章 世界の海と伊勢湾

海と港は世界への窓。

歴史と現代、文化と文明、海と内陸、物流と情報、それらが生き活きと交流するのが、古来、ウォーターフロントとしての港の役割であった。そして、その双方が大切に活かされることがこれからのみなどに成熟した、固有の表情を育ててゆくのであろう。

伊勢湾の風土や歴史と似通ったアドリア海や地中海、大西洋など世界の海と港に学びながら、伊勢湾の海の恵みと港の可能性を探ってみよう。

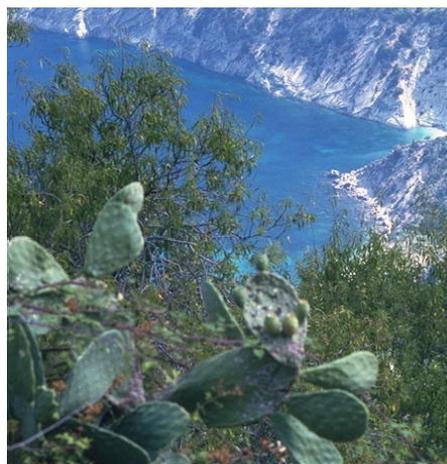
### 1. アドリア海 - 地中海の風土

アドリア海 - エーゲ海は冬に風雨が多い地中海型気候地帯に位置するが、その地形・歴史も伊勢湾と似通っている。ハーブやサボテンの茂る乾燥した荒涼とした岬や白い島々にギリシャ神話の神々を祀るポセイドン神殿やパルテノン神殿、その丘の麓には季節毎に吹く風を観測した「風の塔」が遺っている。

澄んだ青い海を年中吹き渡る風を利用する風車はエーゲ海の風物詩となっている。



アドリア海 - エーゲ



サボテンやハーブが茂る地中海



パルテノン神殿と麓の「風の塔」



ミコノス島の風車

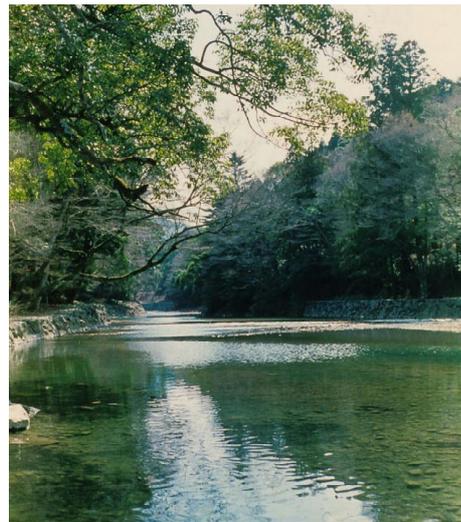
## 2. 伊勢湾の風土

伊勢湾の西岸では夏の雨、冬の雪がもたらす豊かな水に育まれた照葉樹の深い杜に包まれて伊勢神宮やこの海に吹く風を司る風日祈の宮(風の宮)が祀られている。

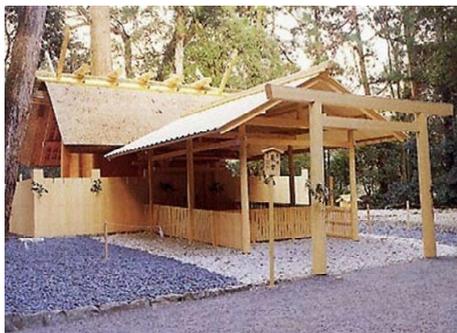
また「風の回廊」とも呼ばれる若狭～伊勢湾地峡帯の分水嶺である鈴鹿山系に吹き付ける鈴鹿風を利用する「青山高原」の風力発電は風の恵みのシンボルとなっている。



新しい伊勢湾



伊勢神宮境内を流れる五十鈴川



伊勢内宮 風日祈の宮(風の宮)



青山高原の風車群

### 3. 海辺の産業・施設 - ヴェニス(伊)・ロンドン(英)

ギリシャの神々の住むエーゲ海から三日の航程でアドリア海の奥深く進むと、伊勢湾では名古屋港に当たるところに水上都市ヴェニスが見える。運河の街ヴェニスでは水上タクシーや水上バスが市民の足として活躍しており、中部国際空港にあたるマルコポーロ空港にも街のホテルや水上バスストップから運河を通過して直行できる。

また、ロンドンの中心部にあるセントキャサリンズドックは再生整備されて市民の憩いの場となっている。名古屋の「堀止舟溜まり」もこのような再生が楽しみである。



運河を進む水上タクシー 市民の足 - 水上バス  
(ヴェニス)



セントキャサリンズドック(ロンドン)

ヴェニスに遺されたアルセナーレ海軍工廠の廃屋はアート・建築ビエンナーレの名所であり、ロンドン・テムズ河畔の百年前の発電所をリニューアルした「テートモダン」美術館には世界中から観光客が押し寄せている。



アルセナーレ(海軍工廠 ヴェニス)



テートモダン(ロンドン)

#### 4. 海辺の産業・施設 - 伊勢湾・名古屋港

伊勢湾の奥深く、木曾・揖斐・長良三川河口の豊かな遠浅を堀削して開かれた名古屋港には歴史に埋もれながらも、視点を変えてみると、将来への可能性を秘めた恵みが数多い。

名古屋城築城のために開削された堀川運河畔の熱田の「宮の渡し」、同様に名古屋の水運を担った中川運河の終端である笹島「堀止船溜まり」はともに都心において伊勢湾への直接のアクセス拠点として活かせよう。

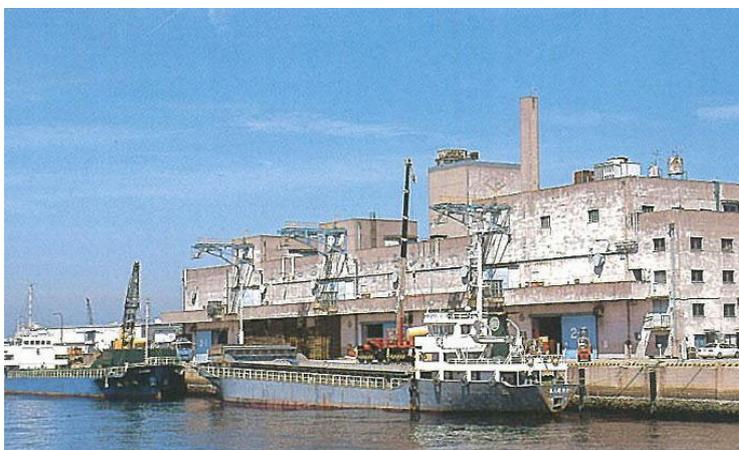


宮の渡し(堀川)



堀止舟溜まり(中川運河)

名古屋港に遺る老朽化した倉庫群を、美術品の収蔵庫・ギャラリー・イベント会場に活用したり、転換期を迎えつつある湾岸の製鉄・造船・発電など重厚長大産業の施設を博物館や美術館に転用する試みがヨーロッパの水辺では数多く見られるようになった。



大手埠頭 倉庫群



中部火力発電所の煙突(潮見埠頭)

## 5. 海辺の文化 - 海外

かつての海軍工廠を利用したアルセナーレ海事博物館にはヴェネチア共和国時代の華麗な帆船が展示されている。

7つの海を支配した東インド会社(VOC)のアムステルダム証券取引所では現代の若者たちがデザイン展を開催していた。



アルセナーレ海事博物館(ヴェニス)



美術館(旧証券取引所、アムステルダム 蘭)

ヴェニスの市長はじめ市民が総出で漕ぎ出すレガッタ・ストリコ(クラシック・ボートレース)は国際的なイベントになり世界中から観光客がやって来る。

ヴェニスの冬の風物詩である仮面カーニバルは宗教行事であるとともに観光客が落ち込むオフシーズンを支えるイベントでもある。



レガッタ ストリコ(ヴェニス)



カーニバル(ヴェニス)

## 6. 海辺の文化 - 伊勢湾

知多市民俗資料館にかつて伊勢湾に独特の帆影を見せていた無数の打瀬船の唯一最後の1隻が遺されており、これは伊勢湾海域はもとより日本の海洋文化の宝ともいえよう。

また伊勢湾の浦々で使われ、いまや貴重な木造の小舟を収蔵する鳥羽海の博物館。

これらを地域の人々が共有の文化資産として意識し、保存して後世にその知恵を伝えていくことが大切であろう。



愛知県型打瀬船(知多市民俗資料館)



海の博物館(鳥羽)

伊勢湾岸でも近年、伝統の祭りが復活し、また新しいイベントも生まれている。知多半島周辺の祭りはなんといっても各地の「からくり山車」であろう。総揃いになれば国際的なイベントとも成りうる壮観である。

名古屋港の冬の花火とイルミネーションは、新たな祭り - イベントとして市民に親しまれている。



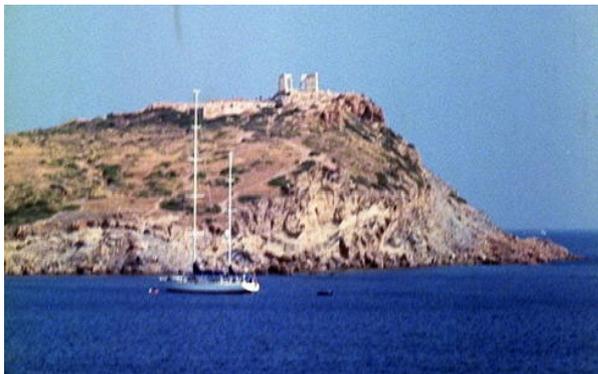
潮干祭り(半田 亀崎)



スターライト レビュー(名古屋港)

## 7. 海辺の自然 - 海外

閉鎖海であるエーゲ海やアドリア海は風光明媚なイメージであるが高水温のせい、大変塩分が高くほとんど海草や貝は生息しない。乾燥して荒涼たる陸影とともに、湿潤で緑濃い伊勢湾の豊かさとの対比が改めて感じられる。



ポセイドン神殿(エーゲ海 ギリシャ)



ブライトン海岸(イギリス)

一足先に高齢化社会となった英国などヨーロッパの海岸には高齢者・家族連れなどの人々が海辺でただのんびり過ごしている姿が見られる。

近代日本が治水・土木の師匠としたオランダの海辺では人工の干拓地に草原が広がり、縦横に走る運河のほとりには大小・新旧の風車が北海の風を受けてゆっくり回っている。



風車(アムステルダム郊外)



アイゼル海干拓地(北オランダ)

## 8. 海辺の自然 - 伊勢湾

伊勢湾は、黒潮の分流が湾口から潜入し、木曾三川からの栄養を豊かに含んだ膨大な淡水が流入している。さらに海底からの上昇流がダイナミックに織りなす、本来、生態系の豊かな希有の海である。

一方で伊勢湾岸は、伊勢湾台風後の高潮対策や産業用地として埋め立てられ、中部国際空港島も潮流や生態系に及ぼす影響が懸念された。そうした中で、常滑の多屋海岸などはウミガメが産卵する貴重な自然海浜として遺され、底曳き漁が停止された空港島周辺では、藻場や魚群が回復しており、この海の生命力を支えるヒトの英知の大切さを再認識する。



中部国際空港海域(常滑沖)



砂浜(常滑 多屋海岸)

また、四季折々の海風を受けて回る湾岸の大小様々な風車や風力発電プラントの姿は、自然との共生のシンボルとして新しい観光のポイントとなる。

名古屋港の大型化と共に生まれた「ポートアイランド」は、菜の花が咲き乱れるような自然共生型の施策により、港口に位置して往来する船のオアシスとなるような新しい夢の可能性を秘めている。



風車(常滑 小鈴谷)



ポートアイランド(名古屋港)

## あとがき

伊勢湾の津々浦々に風の恵みを訪ねての旅はいかがでしたか。海の風は我々の文化や暮らしに大自然の息吹を運んできます。現代でも伊勢湾を吹き渡る風をどうぞ肌感じてみて下さい。新しい伊勢湾との、自分自身との出会いがあることでしょう。

本書の編纂にあたって貴重な資料や写真をご提供いただいた、国土交通省名古屋港湾・空港整備事務所、名古屋港管理組合、中部空港株式会社、ほか関係各位の方々に感謝いたします。

この冊子「伊勢湾 風の回廊」が、移ろいゆく新たな時代の伊勢湾のあるべき姿を考え、支える一助となれば幸いです。

NPO法人 伊勢湾フォーラム 理事  
名古屋造形芸術大学短期大学部科長

品川 誠

**伊勢湾 風の回廊** 風の恵みを訪ねて

平成16年10月 発行(初版)

編集・監修 NPO法人 伊勢湾フォーラム  
国土交通省 中部地方整備局  
名古屋港湾・空港整備事務所

本資料に使用した写真等は、関係各位のご協力により本企画に限り独自に入手・引用したものです。従って、本資料以外への複製、転載、複次利用はできませんのでご注意下さい。



Isewan Forum